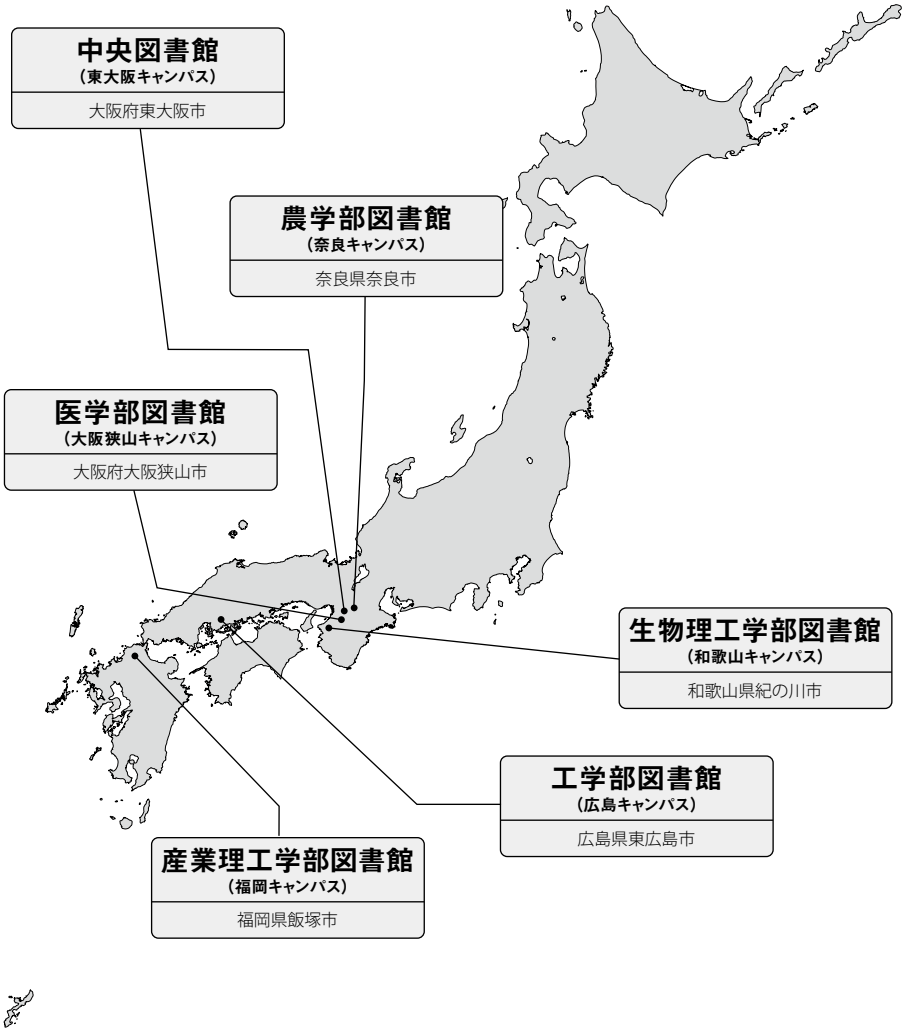
各キャンパス図書館めぐり



農学部図書館のご紹介

農学部図書館長　岸本憲明

1. はじめに

農学部図書館は奈良キャンパス研究棟２階の一角にあり、館内からは緑豊かな里山の自然を見ることができる落ち着いた雰囲気の中にある（写真１）。現在の専有延床面積は 966 ㎡で、3,000 名あまりの学部生・大学院生が勉学に励んでいる。

写真 1.　農学部図書館の閲覧席

2. 沿革、歴史

農学部は 1958 年に農学科と水産学科の 2 学科で東大阪キャンパスに創設され、1989 年に奈良キャンパスに移転した。学科の増設と大学院が設置され、現在は 6 学科（農業生産科学科・水産学科・応用生命化学科・食品栄養学科・環境管理学科・バイオサイエンス学科）と、大学院前期・後期課程で構成されている。現在の農学部図書館も移転時に設置された。

3. 農学部キャンパスの紹介

農学部キャンパスは奈良市郊外に広がる緑豊かな里山に囲まれ、四季折々の植物であふれ、野鳥たちを見ることができる自然豊かな環境の中にある。キャンパス内には教室棟や研究棟をはじめ、図書館やコンビニ、食堂や共同研究棟、本格的な栽培施設が完備されており、農学を学ぶにふさわしい環境となっている。

4. 図書館の業務内容

農学に関連する専門書籍をはじめ一般書も含めて約 142,000 冊、うち洋書は約 43,000 冊、雑誌は洋雑誌 817 種を含む約 3,000 種の他に、視聴覚資料などを書架や雑誌棚に配架している。さらに、無線 LAN を設置してパソコンを使った情報検索システムも常時利用することができる。図書館では学生の電子ジャーナルやデータベースの活用スキルを高めるために、講習会を１、２年生の他、研究室単位でも開催している。

平日は 9 時から 19 時（土曜日は 17 時）まで開館している。試験期間中は閉館時間を 20 時まで延長し、日曜日も開館して学生たちの学習を支援している。図書館で勉学する学生のモチベーションは高く、とくに試験期間中とその前は、空席を見つけることが難しいくらい混雑している。2016 年度の開館日数は年間 274 日で、延入館者数は約 93,000 人に達した。また、卒業生を含む学外からの利用者も受け入れている。

5. 今後の取り組み

現在農学部ではキャンパスの整備計画を予定している。その中心となるのが、多目的ホールと調理実習室の新築計画である。その計画の中で、図書館下の１F 部分にある学生ホールと調理実習室が新建物に移設され、空スペースが図書館の専有スペースになる予定である。「このスペースを学生にいかに活用してもらうか」妙案を練るのが、次の課題と考えている。

6. おわりに

大学図書館は図書の配架と閲覧という個人の勉学支援の場であるとともに、最近は少人数グループで課題解決のためのディスカッションや調査の立案を行い、得られた成果をプレゼンするアクティブ・ラーニングの場としても注目されている。情報の収集や選択、活用する能力を育成する場を学生に提供する新たな役割が農学部図書館に求められている。拡充予定の専有スペースを有効活用して、利用者にとって、より設備・サービスの充実した施設となり、利用者の利便性・満足度が向上することを期待している。

医学部図書館のご紹介

医学部図書館長　下村嘉一

1. 医学部について

医学部は昭和49年に大阪狭山市に設置され、その翌年に附属病院、平成11年3月に堺病院、同年10月には奈良病院を開院、複数の教育研究施設を設置し、充実した環境の中で多くの医師を輩出してきた。

平成29年5月現在、医学部学生数は731人、大学院生は107人、教職員数は2,977人、看護学校生は350人である。

2. 図書館の概要、蔵書数

医学部図書館棟は昭和49年2月に大阪狭山キャンパスの東側に竣工され、窓からは金剛・葛城山系の山並みや夏には隣の富田林市で行われる大きな花火大会も一望でき、春は緑、秋には色鮮やかな紅葉になる樹木に囲まれた静かな環境の中にある。建物は地上2階地下1階で総面積は2,424㎡。開学当初地下1階は学生食堂であったが、蔵書数が増加したため食堂を移転し、昭和54年より建物全体が図書館となった。図書館棟入口は1階、図書館入口は2階で、2階が閲覧室となっており、専門・一般和図書、参考図書、国試対策本など主に学生が利用する図書を配置している。1階は1985年までの和・洋製本雑誌、地下1階は新着雑誌、1986年以降の製本和・洋雑誌、専門・一般洋図書を配置している。

座席数は170席。ほとんどが2階閲覧室に配置している。以前は6人掛けの集合キャレルだったが、学生の要望が多かったため、ほとんどのキャレルを個人用に変更した。

開館当時の蔵書冊数は42,162冊だったが、現在の蔵書冊数は当時の5倍の約200,000冊。過重の問題もあり、数年前より過去のアーカイブが保証された製本雑誌や古い図書など約50,000冊を廃棄している。医学部が契約している電子ジャーナル数は約5,300タイトル。費用は中央図書館契約の電子ジャーナルとデータベースを合わすと図書館総支出の95％になる。

昨年度の入館者数は49,796人。電子形態資料が多くなったため、教職員の入館者数が年々微減している。

3. 華岡流外科道具

華岡青洲（1760-1835）は、世界で初めて全身麻酔による乳がん手術に成功した日本人で、2階華岡流医療機器資料室には、華岡青洲の医療を学んだ中村順助が使用していた外科道具と日記、薬箱等を展示している。この貴重な資料一式は平成13年に中央図書館より移管をうけたものである。青洲創案の医療器具は現代の医療にも通用すると言われており、日記類や関連文書等これだけ揃っているコレクションは大変希少であるため、医学史や医療器具を研究している学会からの見学希望や質問も入ることもある。

通常は非公開だが、本学各附属中学・高校の生徒、近隣高校の医薬コースの生徒の医学部見学時やオープンキャンパスの際に公開している。

華岡流医療機器資料室

4. 医学部移転について

平成35年に医学部は堺市へ移転することが予定されている。医学部図書館も移転に向けて現在所蔵している蔵書の取捨選択や、購入資料の形態を今後考えていかなくてはならない。学生・教職員のためによりよい設備やサービス、資料を揃えて魅力ある図書館にしていく所存である。

生物理工学部図書館のご紹介

生物理工学部図書館館長　浅居正充

1. はじめに

生物理工学部は、平成5年に、生物の特徴・機能の工学への応用等を眼目とする学部として和歌山県那賀郡打田町（現 紀の川市）に設置された。広範囲の生物系・工学系分野の融合をめざす本学部は、その後の同分野の大学・学部の先駆けとなった。場所は紀州根来である。16世紀のメルカトル世界図に"Negra"と記されたこの地は、嘗て学僧が行き来する日本有数の学問拠点であった。この様な奇遇に恵まれた本学部は、平成22年の学部改組により、バイオ技術をベースに工学・農学、理学、医学の融合・応用をめざすライフサイエンス系学部として生まれ変わった。本図書館は、この様な理念に基づく学部・大学院の教育・研究に資するべく、図書館の設備、蔵書その他の整備・充実を図ってきた。本稿、次章にその概要を記す。

2. 図書館施設、蔵書、その他

生物理工学部は、紀州根来の広大な所有地に4つの研究棟、教室、図書館、アリーナ、事務室、飲食施設を収める2つの教学棟、コミュニティホール等を擁する。2つのフロアに広がる図書館の総延面積は1,263㎡、閲覧席数は300席、書庫の収容可能冊数は約95,000冊であり、教育・研究に十分なキャパシティを備える。平成24年に閲覧室をリニューアルし、PC12台とPC持込可能な閲覧席を12席増設した。また、AVブースにPC4台を増設する他、滞在型図書館としての機能向上のため、ブラウジング（新聞・雑誌閲覧）コーナーをリニューアルした。翌年にはミーティングルームを2室設置し、研究ミーティング等の研究支援機能の向上を図った。

平成29年3月31日現在の蔵書冊数（製本雑誌含む）は94,956冊（和書67,436冊、洋書11,101冊、製本和雑誌6,577冊、製本洋雑誌9,842冊）、学術雑誌の所蔵種類数は580種（和雑誌301種、洋雑誌279種）、視聴覚資料は2,047冊であり、契約する電子ジャーナル・データベースは49,075タイトルに及ぶ。蔵書構成としては、生物理工学の教育・研究を支える工学・農学、理学、医学及びバイオ技術との融合に関するものが多くを占める。これは、開学以来、学部改組、大学院設置・改組、「21世紀COEプログラム」、「大学院GPプログラム」への選定などの折にふれて関連図書資料を充実させた結果である。また、シラバス記載図書の全点整備、語学・資格関連書籍なども充実させてきた。平成27年より、ブラウジングコーナーにて、地域、時節の話題、各学科の分野に関する選抜図書配架も行っている。

本図書館では、利用促進のため、「図書館だより」を発行する他、新入生の「基礎ゼミ」などで利用方法を指導している。またデータベース利用等に関する講習会も開催している。

3. 結びに代えて～図書館を通した知の交流

本図書館は、私立大学図書館協議会、和歌山地域図書館協議会、岩出市図書館協議会に加盟して相互利用等の強化を図る他、中・高校生の就業体験を実施し、高大連携にも貢献している。和歌山の協議会は県内8大学が加盟し、毎年フォーラムを開催する。今年は小職が講演を行った。これは新聞にも掲載されて耳目を集め、フォーラムは地域の人々の楽しい社交場となった。自治体の図書館が地域交流の拠点となっているのは、人は生来知を欲するもの、とのアリストテレスの言葉の体現といえる。大学図書館は高度な知の結集という役割を持つが、地域の文化を学びそれに貢献する知の交流拠点ともなり得る。嘗て全国の秀才が集った"Negra"の大学図書館として恥じぬよう、今後とも図書館の充実・改善に努めて行きたい。本稿の執筆にあたり、貴重な情報をご提供くださった本館の中田敏代課長代理に厚く御礼申し上げます。

工学部図書館のご紹介

工学部メディアセンター長　徐　丙鉄

広島キャンパス（広島県東広島市）にある工学部図書館は、キャンパスの中央に位置するメディアセンターの2階と3階にあります。1階は情報教育センターです。メディアセンターは学生中心のキャンパス作りの理念に基づいて設計された学習空間で、2005年10月に竣工しました。側面にガラスを多用した外観はオープンでモダンな雰囲気で、学生にも好評です。

工学部図書館はフロア面積3,208㎡、蔵書数約25万冊、全開架式で自由に閲覧でき、閲覧席は学生数2,300に対して389席です。

メディアセンター入り口から図書館へ向かうと、図書委員が分担執筆する「読書ガイド」が大判印刷されて掲示されているのが目につきます。これは毎月更新され、Webにも公開していますので、「近畿大学工学部 読書ガイド」でWeb検索すればヒットします。

2階の図書館入口のゲートは入館システムにより学生証で開きます。2階にはサービスカウンター、ABC自動貸出機、蔵書検索端末があり、AV資料・新書・雑誌棚と新聞・雑誌をくつろいで閲覧できる「ブラウジングコーナー」があります。

2階の開架書架には一般教養図書、授業関連図書、大型本、文庫本、資格・就職関係図書を配架し、奥には古い図書、洋雑誌、研究報告・紀要などを収めた電動集密書架があり、常に開架の状態で自由に利用できます。

この他に2階には、閲覧席が165席、視聴覚資料用のAVコーナーが14席、研究個室が5室、多目的に利用できるグループ研究室（12名収容）が3室あります。また折々に企画図書の展示や学生選書の展示コーナーを設けて配架もしています。

現在2階に、NOAH33のKEY BOOKを集めたコーナーを準備中です。KEY BOOKを一望の下に閲覧できるコーナーは全方位をカバーする読書ガイドになるでしょう。

3階へは、2階の中階段から上がって行きます。このフロアは専門図書の開架閲覧室で、工学系の図書と和洋の雑誌を配架しています。閲覧席は224席あり、静かで集中して学習できる空間です。また、3階には屋上テラスがあり、屋外での読書やリフレッシュの場として利用されています。

館内にあるパソコンではOPACによる蔵書検索はもちろん、近畿大学で契約（工学部独自の契約も含む）の電子ジャーナル、データベース、電子ブックも検索・閲覧できます。また、学内無線LANに接続すると、個人のスマートフォン、ノートPCやタブレットからも検索・閲覧できます。館内貸出用のPC、タブレットも用意しています。

図書館サービスとしては、OPACの利用方法、文献探索やデータベース検索講習会等を随時行っています。カウンターでは利用案内、所蔵調査、資料検索、他図書館からの貸借（ILL）を受け付けています。

産業理工学部図書館について

学術情報センター長　森　正壽

1. はじめに

産業理工学部図書館は、4号館学術情報センター棟にあり、その1階、2階の全フロアーを占めている。4号館自体は、昭和62年10月に学部改革に伴って新築されており、1階は書庫、2階に受付カウンター、開架書架、視聴覚資料、地域資料室などが設置されている。同3階は、電算機センターとなっており、機構上図書館と併せて、学術情報センターとなっている。

4号館外観

2階書架

2. 図書館システムの電子化

図書館システムは近年に渡って電子化が進んでおり、昭和58年にDialog、平成元年にJOISによる文献情報検索サービス、平成7年には国立情報学研究所の学術情報ネットワークへの接続が完了した。同年9月には図書館情報管理システムLIMEDIOが導入され、貸出・返却、書誌検索サービスとして学内LANを使ったBAIKAの運用が開始された。平成8年4月からはOPACの利用者端末を設置し、国立情報学研究所が運営するWeb-catによる図書館総合目録検索サービスを開始した。

また、本学部にUNIPA（Universal Passport / GAKUEN）が導入されるに伴い、これまで用紙で行っていた各種アンケートを、UNIPAのアンケート機能を利用してWEB上で行っている。例えば、雑誌購読等アンケート実施、理解度小テスト実施により、学生の理解度を把握することができる。

3. 活動の多様化について

図書館の本来的な業務以外にも、多方面での活動を各種行っている。例えば、選書ツアーでは、毎年福岡市内の書店において、学生・院生が勉学や趣味に応じて自由に選本し、職員が確認後、購入・開架へと進んでいる。教員も授業関連や研究用に選書ツアーに参加している。

さらに、学生のスキルアップのために各種講習会を開催しており、平成28年度では、日経テレコン講習会、ジャパンナレッジ講習会を開催し、好評を得ている。

4. おわりに

ここ最近の入館者数が若干減少しているが、これは学内LAN速度の向上や、スマートフォンの普及により、図書館に行かなくても、検索や調べ物ができるようになったためと思われるが、やはり本を手に取ってページをめくることを期待したいところである。そこで、当館では平成28年より新たなサービスとして機能性アロマを導入することとした。このアロマは近畿大学名誉教授の宮澤三雄先生と@アロマ株式会社（代表取締役社長：片岡郷氏・近畿大学OB）の共同開発で生まれた製品であり、集中力や記憶力の持続・向上に特化したもので、来館者に大いに喜んでもらえるものと信じている。図書館では、今後も引き続き快適な環境の中で主体的な学習を支援する場の提供に取り組む所存である。